

平成21年度 第2回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会会議議事録

開催日時：平成21年12月17日（木）19:00～21:00

開催場所：中標津町役場 301会議室

参集者：委員 21名中 17名出席

1. 委員長挨拶 小林 英嗣

7時からのスタートということでお疲れですが、もうちょっと体と頭の最後のエネルギーを振り絞っていただきたいと思います。それで今日はこういう時間帯なので議事は2つありますが、大事な部分は全体をどう進めていくのかというまちづくりの構想の部分でございます。そこにウエートを置きながら進めていきたいというように考えています。先月11月5日と6日に中標津に来ましたが、それ以降行われている取り組みに関しまして、のちほど事務局から報告していただきますので、よろしくお願いします。

2. 議事

(1) これまでの取組の報告

- ・まちづくりフォーラムの開催
- ・第1回都市マス策定委員会の開催
事務局より「別添参考資料」と
「都市マス通信第1号」に基づき報告
- ・まちづくり交流広場への参加
- ・第5回庁内推進会議の開催

(2) 全体都市づくり構想

事務局より説明

- ・都市づくり上の課題と目標
- ・超長期（都市骨格）、長期（都市構造）の構想
資料1ページから8ページに基づき説明。



小林委員長：今、都市計画マスタープランは、法律上都市計画法に位置づけられているのです。ところが都市と農村を別々に考えるのはいかなものかという話がある。

都市は都市、農村は農村というように別々に考えていくというのは、あまりよろしくない、効率的ではない、あるいは正しくないというのがあります。

都市と農村を一体的に考えながら地方が、地域が、基礎自治体となる。市町村が独自のまちづくりの考え方を進めていくというモデルに中標津はなっていく可能性が十分あると思う。

・中期構想（都市整備）のテーマ

資料9ページから14ページと委員作成資料に基づき説明。

委員からの意見

委員作成資料「今後10年のまちづくりのテーマ（仮案）に対する意見」に基づき委員より説明

1. 意見のポイント

解決課題

「自然豊かな川を守り、活かす」を「自然豊かな緑や川を守り、活かす」へ

理由としては中標津町市街地の緑被率が高いこと。

故村田雄平元町長の回想録によると約54%。全国の主要都市と比べても数値が高い。

札幌市、横浜市19.9%、福岡市24.9%等。

2. 今後の課題

委員からの意見

私が考えるまちの魅力と言うのは「食の美味しいまち」、「交通の利便」、「立地特性を活かしたまち」、「若者が楽しめるまち」、「夢の持てるまち」、「街中の賑わい、活性化」、「地域産業の元気なまち」中心市街地の取組が今後、このゾーンがこれからもこのままでいけるのか、何かの力で地主とのセッションが楽になっ

て、そこに投資ができるようなまちになっていけば街中も変わるのではないかなと思う。
商売をやっている人達を積極的に誘導する施策がつかれるのかということが一番大事なポイントではないかなと思います。

テーマ1～5の言葉がもう少しわかりやすい言葉が無いのかなと思う。子どもたちが見てもわかりやすいものがないか。

中標津は他から人が集まってくる。空港があったり、昔の鉄道があった時代の頃から見ると商業的な発展の経過を含めてそういう資料が残っているし、そういうものが町の活気の重要なところになってくると思う。街中にある程度ゾーン決め、花を植えて花壇にしたり、公園にしたり、すぐに使おうと思えば使えますし、利用方法があるのではないかなと思います。

まちなかの場所の特性をどう強化するかというようなイメージをもっと強くさせなければならない。

あまり無理をせずに、少しずつ追加的な形で進んでいけばと思っている。

「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」その安心していける状態をうまく提供できれば、若い人も定着するだろうし、まちの賑わいも出てくるのではないかなと感じている。

人と人とのつながりが希薄になっており、「安心・安全のまちづくり」のため意見を言っていきたいと思っている。

我々と自治体とのコミュニケーションで、信頼関係を進めていく。その成果が地域の住民との安心につながっていく。

「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」、「子どもを安心して育てられるまち」、「若者が楽しみ、夢の持てるまち」、「ふれあい、交流のまち」いろいろなことを町内会で取り組んでいる。

今、町内会で一番問題になっているのが、「若者が夢を持てるまち」ということです。

無理に町内会に入れるのではなく、何か町内会のお手伝いをしていただくような形で参加してもらおう。

それが都市マスにもつながっていくのではないかなと思っている。

基本的なキーワードである自然豊かな緑を守り、緑被率を高めるためにはどうしたら良いか考えました。

中標津の町花であるエゾリンドウの群生地をもう少し多くしてはいかかかなと思っている。そうすることによってより一層、自立と共生が増すまちになるのではないかなと思っている。

農家の建物の色を統一するなど、農家と街なか、両方で考えて行ければと思う。

何十年か先のことを考えると、この町の観光にも力を入れていかなければならないのかなと思っている。

この町は通過型で、商業的な観光、いわゆるツアー客を滞在させるということも必要ではないかなと思っている。

これだけ自然という財産もあるのでグリーンツーリズムやエコツーリズムと言った癒し効果を感じていただきながら滞在していただくことを考えて行ってはどうなのかなと思っている。

一つの構想の中に中標津は周辺から人が集まりやすい、360度どこにでも行けるような場所なので観光案内するには非常に良いポイントにある。

中標津は根室からウトロから釧路から阿寒から網走とか本当に360度観光できるという良いポイントにあると思いますので、それを活かすべきだと思う。

事務局：本日、委員の皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。次回の会議は、2月末頃を予定しております。今後このテーマについての具体的な方策等を役場庁舎内で組織しております庁内推進会議で検討いたしまして、委員の方にまた新たな部分でその方策についてご意見をいただきたいと考えております。これにて閉会したいと思います。夜分遅くまで大変ありがとうございました。